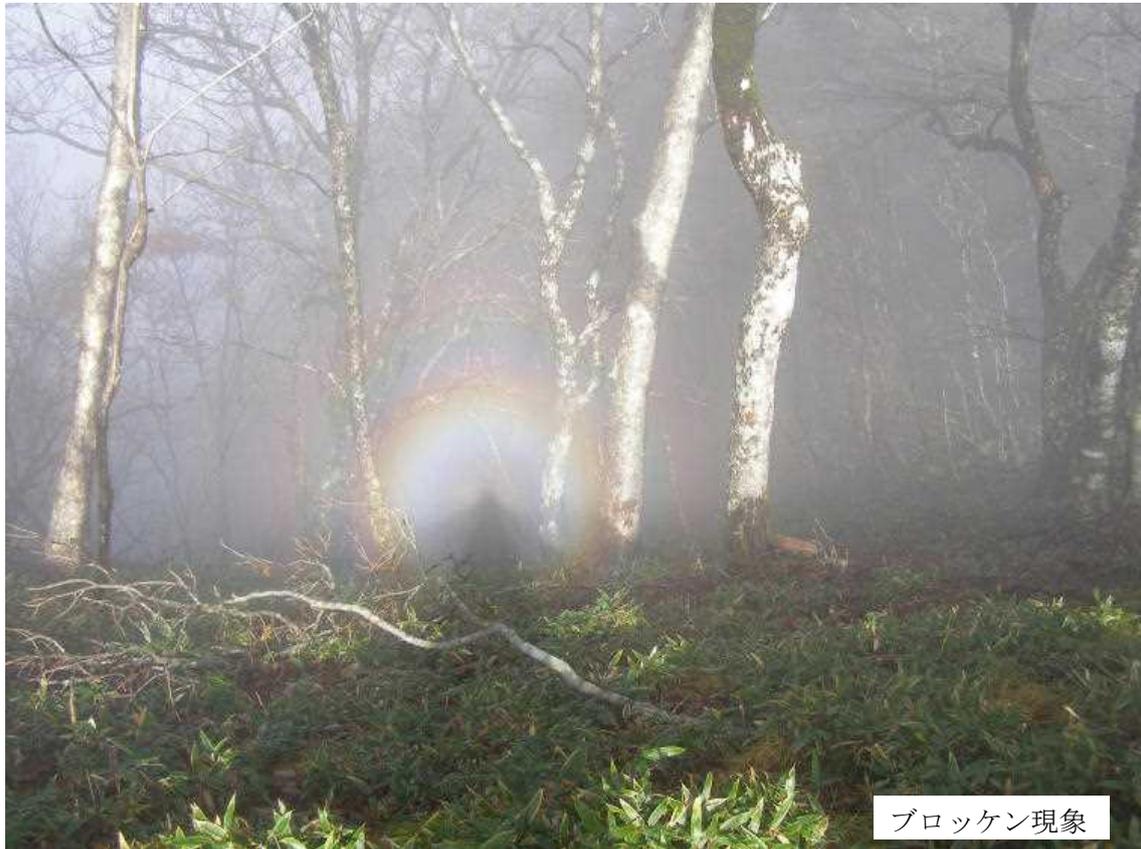


剣山・三嶺・篠山・三本杭

つるぎさん ・ みうね ・ ささやま ・ さんぼんぐい

毎日新聞旅行

22 ～ 25 日



ブロッケン現象

こんなに真近に色濃いブロッケンを見たのは初めてである。剣山から三嶺への長い尾根の真ん中あたりにある丸石避難小屋の近くで見た。

剣山にはこれで 3 回目である。最初は 1980 年、ただ 100 名山をやるためということでリフトから 20 分で頂上に立った。これでは気が引けたので 2 回目には真面目に下から登った。登山履歴に見当たらないのでおそらく 1990 年代前半だろう。広島支店の津守に誘われて、祖谷溪の平家落人部落の温泉に泊まったりして豪華旅行をした。前回まで



剣山山頂

は頂上に木道なんてなかった。今回はやはりリフト利用であったが、一応、一ノ森経由などをして体面は保った。結構雨が強かったのでいやな出だしである。小屋は、平日にかかわらず、我々の他にも何人かの客がいた。そんなこと言っちゃあ悪いかな。

2日目は剣山～三嶺の大縦走である。長期戦が予想されるので、朝はまだ暗い5時スタートである。1時間ほどは



ヘッドランプのお世話になる。雨は止んだが風が冷たい。10時過ぎくらいにようやくガスもなくなって景色が見渡せるようになった。稜線から谷へ流れ落ちるたき雲や、この尾根の特徴であるなだらかな稜線が見渡せる。この稜線は1600～1900mを上がったたり下がったりするので、

それほど厳しいものではないがとにかく長い。何しろ剣山～三嶺の距離は17kmである。そして、最後の三嶺の登りはクサリ場などもあって結構効く。三嶺頂上に立つころには天気もすっかり良くなって、広びろとした四国東部のなだらかな山容を一望することができた。



下りは名頃部落へ降りた。植草パパーダーが、“ちょっと帰りに寄り道をします。”と言う。“もう疲れてなのにメンドクセーな”と思いつつ歩いて行く。なんと、ここは案山子部落であった。いたるところに案山子が置かれている。過疎の部落を少しで



名頃部落の案山子

も元気づけようと、部落のおばあさんが考えたらしい。以前テレビで紹介されていたのを見たことがある。それがここだったのだ。いいところを紹介してもらった。

毎日新聞旅行は何でこんなパックスアートを組んだんだろうと誰もが思う。四国の東の端に位置する剣山と三嶺から西の端に位置する篠山と三本杭をセットにしてしまったのだ。だから第3日目はほぼ1日移動に充てられて、篠山への登山開始は2時を回っていた。前日がきつかったから大歓迎である。篠山の頂上には南・伊予の国と北・土佐の国の標識がある。



篠山の国境標識

4 日目は、滑床溪谷と名前が付いているだけあって、川はすべて一枚岩の上や割れ目の間を流れる滑川である。常に湿気の多いところであるので、道は苔むしたところなどが多く、歩くのに神経を使うが、これほど長く滑川が続くところは珍しい。雪輪の滝などは、ありそうでなかなか見ることのない滝である。

その先端から登る3本杭は、篠山と同じようにかつては3つの圏の境界であったのでその名が付いたとのことであるが、今は大げさな標識はない。

今回は100名山と200名山が一つずつということで、メンバーには知っている人が多かった。Sノさん、Iナバさん、Mカワさん、その他にも武奈ヶ岳で私が歌い狂った時のことを覚えている人もいたので、まだたくさん知った顔がいたのであろう。ガイドは植草パパと増田さんが務めてくれた。



雪輪の滝



滑床

